

平成31年度山口市農業委員会年次総会議事録

- 1 開会日時 平成31年4月25日(木曜日)午前10時00分から11時12分まで
- 2 開会場所 山口市役所 第11会議室
- 3 出席委員(農業委員24人中22人、推進委員9人)
安田敏男(会長)、神田一夫(会長職務代理者)
荒瀬澄枝、伊藤良雄、上田正士、片山潤之、賀屋忠之、河村吉人、田戸洋志、恒富竹司、
徳田文雄、中川恵美子、中谷敏明、原田雅恵、原田好子、藤村守、藤原敏郎、安野正純、
山根伊都子、山根良男、山見智盟、吉富崇子
推進委員
岡本公一、徳本優、池田和子、中川晴吉、村中勝美、繁村勝正、伊藤三枝子、中山隆之、
山根久子
- 4 欠席委員(2人)
小野基之、海地博志
- 5 事務局職員 吉村参事、河村主幹、岩本主幹、三原主査
- 6 会議傍聴人 なし
- 7 議事事項
[議事]
議案第1号 平成30年度山口市農業委員会業務報告
議案第2号 平成31年度山口市農業委員会事業計画
[報告]
(1) 業務関係資料について

神田会長職務代理者 みなさん、おはようございます。座って、本日の総会を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成31年度山口市農業委員会年次総会を開催いたします。

在任農業委員総数24名、開会時出席委員22名、欠席委員2名でございます。よって、農業委員会等に関する法律第27条第3項の規定により委員の過半数が出席しております。よって、本日の総会が成立したことを報告します。また、農業委員会等に関する法律第29条第2項の規定によりまして、農地利用最適化推進委員を代表して、各地区協から座長、副座長にも出席していただいております。

それでは、次第の3、山口市農業委員会安田会長が御挨拶を申し上げます。

安田会長 皆様、おはようございます。昨日の久しぶりの雨で、若干、土地も湿ったかなと思いますし、水も多少の潤いを得たのではないかと考えております。また阿東地域では田植え、他の地域におきましては5月作業の準備等、慌ただしい中、本総会に出席いただきまして誠にありがとうございます。また、本日のこの総会には、山口市の渡辺市長様、そして県農業会議大野局長様の御臨席を得ております。大変ありがとうございます。また、平素から山口市農業委員会の事務局運営に対し、御支援あるいは御協力をいただいておりますことに対しましても、改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

昨今の農業情勢たるもの、非常に厳しい状況になっております。農業情勢を語ることはありませんけれども、皆さん御承知だと思います。最近ではアメリカの二国間協議において、また農産物輸入の土台が謀られようとしております。しかし我々の任務は、国内の、また山口市の優良農地の、遊休農地、荒廃化を防ぐためにも、対応してまいるのが我々の任務でございます。

そうした中で農地バンクの見直しが先日ありまして、今度は人・農地プランというものが、非常に重要になってきております。山口市も全域に人・農地プランが策定されており、策定されているプランに関しては毎年、更新、変更しております。しかし、行政サイドから下ろされたプランであり、本当に我々、推進委員の方々によって作り上げられたプランではないと思っております。今後、農林政策課と協議しながら、人・農地プランのあり方を再検討する意味で、田植えあげの頃から地区ブロックに、人・農地プランの担当者と一緒に参り、皆さん方に協議していただき、本当に地域の農業中心経営体となる人の掘り起こし、確保というものを成し遂げてまいりたいと思います。これが強いては、山口市地域の農業の振興につながり、また地域の地域農業の発展につながると私は確信しておりますので、また皆様方の御協力のほう、よろしくお願いいたします。

また、今までは部会制をとっていた関係で、農業振興部会のほうで少々の議案等も叩き上げ、総会にかけておりましたけれども、この度は平成最後となりますし、また新しい体制での総会でもあります。忌憚のない皆様方の御意見を少しでもいただいて、遠慮はいりませんから、意見を出していただいて、農業委員会の運営、また地域農業の発展に協力してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、年次総会にあたりあいさついたします。

神田会長職務代理者 それでは続きまして、次第の4番、御来賓の方々より御挨拶を頂戴いたします。最初に山口市長渡辺純忠様、よろしくお願いいたします。

渡辺純忠山口市長 皆様、おはようございます。本日は平成31年度第1回山口市農業委員会年次総会が、委員さん、そして関係者の皆様方の御出席のもと、このように盛大に開催されておられますことを、心からお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては平素から、本市農業の振興をはじめ、市政各般にわたりまして格別なる御支援と御協力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

また、日々の業務におかれましては、農地パトロールや遊休農地所有者等への利用意向調査などを通して、耕作放棄地化を未然に防ぎ、優良農地の確保や担い手への利用集積の促進に向け、かけがえのない農地を活かす取組みに御尽力をいただくなど、農地利用の最適化に多大なる御貢献を賜っておりますことに対しまして、この場をお借りしまして改めて、深く敬意を表し、また感謝を申し上げます。

さて、本市におきましては、昨年4月から第二次の山口市総合計画によるまちづくりをスタートいたしており、活力あふれる定住実現都市を目指した県都づくりを進めておりますが、その2年目となります本年は、平成の時代から新たな元号、令和の時代へと、山口のまちづくりを未来につなげていく、歴史的に大変意義深い年でもございます。

こうした新たな時代を迎える中、本市では、本年を「つなぐ 未来創造」の年と位置づけまして、今日までのまちづくりと、新たな時代のまちづくりをつなぐための様々な取り組みを進めているところでございます。

とりわけ農業の振興につきましては、昨今の厳しい農業情勢に対応するため、昨年3月に、皆様方のいろいろな御協力を得まして策定をいたしました「山口市食料・農業・農村振興プラン」の将来像に掲げております「みんなで育む農業・住み続けられる農村」の実現に向け、農業所得の向上が図られるよう、ほ場整備など農地の集積や集約をとおした農業基盤の整備をはじめといたしまして、法人化の促進や担い手の育成支援、スマート農業の実現に向けたICT機器の導入支援、更には、新たな流通システムの構築や6次産業化の推進を図りますなど、地域の農業が将来にわたり、持続・発展していけるよう、積極的に諸施策の展開を進めていくことといたしているところでございます。

こうした中、本日は、昨年改正をされました新たな農業委員会制度のもと、農業委員の皆様と農地最適化推進委員の皆様方がこのように一同に会され、このように第一回目の年次総会を開催をされますことは、大変意義深く、また、誠に心強く感じているところでもございます。

どうか、皆様方におかれましては、先ほど申し上げました本市の農業政策に対しまして、これまでと同様の御支援をいただきますとともに、今後とも皆様方の豊富な御経験と高い御見識によりまして、本市の農業の発展と、本市の美しく、かけがえのない農地を守り、活かし、そして次の世代へと承継していくために、引き続き、お力添えを賜りますようによろしく願いを申し上げます。

終わりにあたりまして、山口市農業委員会の益々の御発展と御参集の皆様方の更なる御活躍を祈念をさせていただきます。総会開催にあたりましてのあいさつとさせていただきます。皆様方には今後、大変お世話になります。どうかよろしく願いいたします。

神田会長職務代理者 ごあいさつ、ありがとうございました。続きまして、山口県農業会議事務局長大野時正様よろしく願いいたします。

(一社)山口県農業会議大野時正事務局長 皆さん、こんにちは。山口県農業会議の事務局長をしております大野と申します。本日の年次総会おめでとうございます。ひとこと、お祝いの御挨拶をさせていただきます。

まず山口市農業委員会におかれましては、県農業会議の副会長も務めていただいております安田会長様をはじめ、農業委員並びに農地利用最適化推進委員、また事務局職員様に農業会議の運営につきまして多大の御支援、御協力を賜っております。この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

また、山口市におきましては、非常に多くの農地の許認可案件がある中、各地区協議会が主体的に熱心な審議をしていただくと共に、後ほど表彰式もありますが、農業新聞等の情報提供活動、更には農業者年金の加入活動等に、全国でも顕著な実績を上げておられます。感謝と敬

意を表します。また、本日、表彰を受けられる皆様、おめでとうございます。

さて、改正農業委員会法が施行されまして、ちょうど3年が経過し、本県では全ての農業委員会が新体制に移行し、今後、改正農業委員会法の下で必須業務となりました、遊休農地の発生防止や担い手への農地の利用集積など農地利用の最適化の推進に、一層、取組んでいく必要があるところです。一方、先ほど安田会長様からも言及がありましたが、国会においては農地中間管理事業法に関する審議が行われており、この中で、人・農地プランの策定等に当たっての農業委員会の法的位置付けが明確化されるなど、取組み、連携の強化が謳われることとなっております。こうした状況を踏まえながら、私ども農業会議といたしましても農業委員会ネットワーク機構としての役割を果たし、農地利用最適化に向けた取組みが円滑に進むよう、微力ながら努力してまいりますので、今後とも御支援、御協力をお願いいたします。

終わりに、山口市農業委員会の今後ますますの御発展と御参集の皆様方の御健勝を祈念いたしましてお祝いのごことばといたします。おめでとうございます。

神田会長職務代理者 ごあいさつ、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、次第の5、表彰を行います。

原田好子委員が全国農業会議所から、平成30年度全国農業新聞情報活動特別功労賞を受賞されました。原田委員、前へお願いいたします。

【(一社)山口県農業会議大野事務局長より、表彰状の授与】

続きまして、安田敏男会長、中川恵美子委員が、全国農業会議所から、情報活動功労者表彰を受賞されました。安田会長、中川委員前へお願いいたします。

【(一社)山口県農業会議大野事務局長より、表彰状の授与】

ここで、御来賓の渡辺市長、大野事務局長は、他の公務がございますので、退席をされます。本日は、誠にありがとうございました。

【渡辺市長、大野事務局長、退席】

続きまして、次第の6、議長の就任を行います。本日の議長は、山口市農業委員会総会会議規則により安田会長が務めます。安田会長、議長席へ移動をお願いします。

安田会長 会則により議長ということでございますが、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。それでは、議長を務めさせていただきます。

初めに、次第7の議事録署名人の指名を行います。本日の会議の議事録署名人に、川西地区の山根伊都子委員、中央地区の山根良男委員、御両名をお願いをいたします。

議案に入ります前に、農業委員会憲章について確認をいたします。中川運営委員、お願いいたします。

中川運営委員 それでは、1ページをお開きください。

この農業委員会憲章は、平成31年1月25日全員協議会において採択されましたので、本日は、この憲章を読み上げますので、御確認をお願いいたします。それでは読み上げます。

【農業委員会憲章読み上げ】

安田会長 はい、ありがとうございました。

それでは、さっそくこれより次第の8の議事に入っております。

議案第1号、平成30年度山口市農業委員会業務報告(案)について、藤村運営委員が説明いたします。

藤村運営委員 それでは、議案第1号について、皆様お手元に、事前にお配りのことと思っておりますので、本来はかいつまんでするんですが、一応全部読み上げさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

議案第1号、平成30年度業務報告(案)。

農業・農村を取り巻く環境は、集落の人口減少が進む中、農業就業者の高齢化や担い手不足、遊休農地の増加、有害鳥獣による被害の拡大など極めて厳しい状況にあり、食料の安定供給と農業・農村の多面的機能の維持・発揮に支障をきたしております。

また、TPP11協定が2018年12月30日、日EU経済連携協定(EPA)が2019年2月1日に発効されました。そのため、輸出先国の関税が撤廃され、日本の高品質な農林水産物などの輸出拡大を図ることができるようになった反面、日本が他国から農林水産物を輸入する際にも、一部の品目を除いて関税をかけることができなくなり、安い外国産の農作物や、付加価値の高い農作物が日本に大量に入って来る可能性もあります。現在、高齢化や担い手不足といった多くの問題を抱えている中で、さらに打撃を受けるのではないかと懸念されています。

このような中、農業委員会組織は、新たに必須業務となった農地等の利用の最適化の推進業務や行政機関等への意見の提出など、新制度のもと着実な成果が求められているところです。

本市においても、7月の任期満了に伴う委員の改選があり、8月の臨時総会において、農業委員24名、農地利用最適化推進委員44名の新体制が決まり、新制度に基づく農業委員会業務を推進していくこととなりました。

具体的な活動については、まず、8月から9月にかけて管内の全農地を対象に、農地利用状況調査を行い、その結果をもとに、12月に利用意向調査を実施いたしました。研修につきましては、4月、8月、10月、1月に、「世界の農業と山口市農業のこれから」、「農業委員会に求められる役割・遊休農地対策」「農地法について」など、委員のより高い知識の習得や資質向上のための研修を実施しました。また、新制度により必須業務となった農地利用の最適化の推進のため、「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を、1月の研修会、各地区協議会で説明、協議し、2月21日の総会において策定しました。情報活動の強化につきましては、農業委員会活動の「見える化」推進のため、11月に農業委員会広報誌「農業しちよる」第6号を発行しました。こうした活動に加え、農業者からの相談・農地の利用関係のあっせん・農業者年金の加入促進・全国農業新聞の普及推進等を行いました。以上です。

安田会長 ただいまの、議案第1号、平成30年度業務報告(案)について、補足説明を事務局に行わせませう。

事務局(河村主幹) 【説明・報告】

安田会長 以上、報告と補足説明がありました。議案第1号、平成30年度業務報告(案)についての意見・質問を受けます。意見・質問のある方は、挙手をお願いいたします。

ございませうか。

ないようございませうので、議案第1号、平成30年度業務報告(案)の承認を求めませう。承認の方は、挙手をお願いいたします。

【挙手多数】

はい、ありがとうございます。挙手多数であります。よって、議案第1号、平成30年度業務報告(案)は承認されました。

続きまして、議案第2号、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)を議題といたします。恒富運営委員には基本方針部分を、河村運営委員には事業計画部分の提案説明をお願いいたします。

恒富運営委員 まず最初に、基本計画のほうを説明いたします。第2号議案、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)について。

I 基本方針。わが国の食料、農業及び農村地域を取り巻く環境は、食料自給率の低迷、高齢化等による担い手の減少、耕作放棄地の増加、農村の持つ多面的機能の低下などが懸念されており、更なる食の安全性や地産地消の推進、農業経営の体質強化が求められています。国の農

政改革では、農林水産業を産業として強化していくため「農林水産業・地域の活力創造プラン」(平成25年12月策定)において、農業・農村地域全体の所得を今後10年間で倍増させるとの目標が示され、平成28年11月の改訂により、更なる農業の競争力強化のための改革が明記されました。また、「食料・農業・農村基本計画」(平成27年3月策定)において、食料の安定供給の確保、多面的機能の発揮、農業の持続的な発展、農村の振興といった「食料・農業・農村基本法」の基本理念を具現化するため、今後10年先までの農政の方向性が示されたところです。

一方、2017年12月20日の第72回国連総会において、日本を含む104カ国が協同提案した国際家族農業年を10年延長する議案が全会一致で可決され、「家族農業の10年」(2019～2028)が始まります。今日の家族農業は、食料生産および農業の多面的機能(生物多様性文化継承)の中心的な担い手として位置づけられ、適切な政策支援を実施する必要があるという認識が国際的に共有されるようになっていきます。

なお、農協組織においては、平成31年4月1日に山口市管内の3農協を含む県下12農協が合併し、山口県農業協同組合が発足しました。支所等の統廃合も行われた中、農家と農協の連携の強化がさらに必要ではないかと考えられます。

こうした時代の変化に対応して、山口市農業委員会は、農業者の代表機関として、地域農業の維持・発展を図ることを基本目標とし、農業委員会等に関する法律をはじめとする関係法令等に基づく任務を適正に遂行し、農地の確保と有効利用、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消等の農地政策、新規参入の促進や担い手の育成・確保対策を拡充するため、農業委員・農地利用最適化推進委員が連携して取り組んでまいります。

河村運営委員 それでは、10ページにありますますが、私のほうからは、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)大項目Ⅱの事業計画について御提案いたしますのでよろしくお願いいたします。

Ⅱ事業計画、1農業委員会組織の充実・強化。農業委員と農地利用最適化推進委員が連携し、各地域の特性を活かす6ブロックの地区協議会制を基本とし、農地の権利移動・転用許可等の審査・審議、農地利用の最適化業務等の活動に取り組みます。また、より高い知識の修得や資質向上のための研修等を行い、農業委員会に課せられた責務に、農業委員・農地利用最適化推進委員が自主的・主体的に取り組む農業委員会組織を目指します。

下のほうにいきまして、農業委員会活動の推進。農業者の生活の安定や向上に向け、農地等の利用の最適化の推進に関する活動、法人化その他の農業経営の合理化、農業一般に関する調査及び情報の提供について取り組んでいきます。

なお、事業の詳細につきましては、事務局より説明いたしますのでよろしくお願いいたします。

安田会長 ただいま、議案第2号、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)の提案がございました。補足説明を事務局に行わせませう。

事務局(河村主幹) 【補足説明】

安田会長 以上、提案のありました議案第2号、平成31年度の山口市農業委員会事業計画(案)、についての意見・質問を受けます。意見・質問のある方は、挙手をお願いいたします。

はい、山見委員。

山見委員 基本方針のところなんですけど、山口市農業委員会としてこういう基本方針でというのが下のほうの何行かに書いてあるんですけど、私の気付きなんですけど、今日の最初のときに憲章というのを読み上げられましたですね。この山口市農業委員会として基本方針、書いてあるんですけど、憲章という意味合いがこの中に入ってきてるんでしょうか、それとも……。

農業委員会の活動そのものは憲章が一番基になると思うんですけど、こういう憲章の文言とかがどこかに入っていると分かりやすいかなと思うんですけど、その辺、私の気付きなので、この中にこの言葉を是非入れてくださいというわけではございません。この憲章という意味が、農業委員会活動の基本方針の記述の中に含まれているということなら了解なんですけど、もしそういうことが薄ければですね、次の、今すぐではなくって、この辺の憲章という言葉を引き張ってきて山口市農業委員会の事業計画を作るというようなのに繋がってくるのがいいのかなと思っております、気付きです。だから、修正してくださいとかどうこうという意味ではございません。以上です。

事務局（河村主幹） ありがとうございます。

全国の農業委員会の憲章がございまして、それとほぼ変えずに山口市の農業委員会憲章というものを作成させていただいております。今、活動計画を見られたらわかりますとおり、大抵のことは載せてあるはずです。見ていただいて、基本的には事業計画の中にそれぞれ取り入れておるといふふうに事務局のほうでは考えております。もう少しわかりやすく説明できるように、事業計画(案)等も作っていきたいとは思いますが、今の御心配をされておられる部分につきましては、何らかの形で事業計画の中に入っているといふふうに考えていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

安田会長 はい、ありがとうございます。他にはございませんか。

はい、上田委員。

上田委員 先ほどからいろいろ、人・農地プランが大きく位置づけられたといふふうなお話を聞く中で、実は私も昨年度、人・農地プランの地元の会議に出ました。そのとき感じたんですけども、どうも的を射た会議になってないんじゃないかということを感じたといひますか。非常に、人・農地プランというのは大事な会議なんだろうと思います。担い手を作っていくかといへん。今、どこの農村も担い手がとにかくいない。年寄りばかり、私を含めてですね、後期高齢者ばかりといふような状況の中で、担い手をその地区でどのように育てていくかといふのは、もう喫緊の課題だろうといふふうに思っています。しかしながら、どうもこの会議について熱気がないといふか、もちろん山口市、広うございますのでいろいろと温度差があるのかもしれませんが、ひとつそこ辺り、農業委員会のほうと担当部署のほうとよく協議をいただいて、これから先の農業、農村をどういふふうにやっていくかは、人・農地プランにかかっているといふことを強く要請される中で、地区の協議会をもう少しいい資料を作り、いい考えといふか、いい方針のもとで会議を開いていくといふことが、非常に大事じゃないかなといふことを思いました。要するに、おごなりの会議になってる、なったのではないかといふようなことです。私、初めて1回だけ出て、断定的なことはなかなか言いにくいんですけども、しかしながら先ほどから出ているように、非常に人・農地プランと農業委員会との密接な関係といふものが、明記されてきたといふことの中でですね、もう少し連携強化に向けた取組み、行政サイドとしての連携をまずは上手にやっていただきたいなといふふうなことを思っています。思いつきましたので、そこ辺りをよろしく願いいたします。

安田会長 はい、ありがとうございます。

今、上田委員さんから御意見出ましたけれども、私も4月に各地区6ブロックを回らせていただきました。そして先日、山口市認定農業者の会の総会へ出ました。そうした中で、今、人・農地プランの位置付けといふものが重要視されております。しかしながら認定農業者の会に入られている方は130何名ですか。そして山口市全体で認定農業者になられている方、あるいは認定新規就農者とを入れますと、2百4、5十くらいおってんでしょう。認定農業者の会には、強制ではございませんので、任意加入ですから、全員入っておられませんが、そう

して地区ブロックを回らせていただいて、農地3法については現地確認、あるいはそれに関することについては、皆さん非常に、農業委員さん推進委員さんお互いに、現場と申請書を照らし合わせて審査されて、大変ありがたいことだと思っております。しかしその中で感じたのが、この今、国が進めようとしている集積、80%を目標にしておりますけれども、これはなかなか達成することは難しいだろうと思います。山口県の農地中間管理機構、これも集積率が、農業委員会等の付け替えによってですね、一時はくっと伸びましたけれども、今ここにきて、3月にも中間管理機構の会議に出席しましたけれども、53%くらいに留まっております。そういった中で思うに、人・農地プランは県下でも山口市が一番活発に、更新、変更プランを毎年審査をしています。下関市さんは立ち上げるには立ち上げたけれども、後は続いていない、やっていない活動していないというのが現状のようです。県下でも山口市は、人・農地プランに関してはトップレベルということです。

そうした中で感じたのは、やっぱり推進委員さんの活動のひとつの柱である現場、これを作り変えていくためには、この人・農地プランをいかに理解して、また地域の農業者、就農者の方々との接点、結びつきやすい位置におられるか、これを今、市の行政サイドから下りたプランを逆にして、農業委員会や農業委員さんと推進委員さんとで、人・農地プランを地元から上げて、体制強化を作りたいという、まあ私の思いです。農林政策課の担当の職員さんとも御相談しております。そうしたことでまた、田植えが終わって一息、作業が落ちついた時点でまた皆さん方に担当の職員さんと共に、地域地域の人・農地プランの図面、あるいは中心経営体におられるメンバーの方を持って回ろうと思っております。そうした中で皆さんに検討していただいて、地域の農業委員さんであり推進委員さんであり、農業者と一緒に農業の方向性というものを探っていくとはいけないんだろうと思っておりますので、事務局には、私この話、まだしてません。この間、認定農業者の会をつくづく感じたわけです。そういうことで今日、総会せっかく皆さんおいでですのでお話を、また提案をしてみたいと思っております。よろしくをお願いします。

ほかにはございませんか。

ないようでございますので、議案第2号、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)の承認を求めます。承認の方は、挙手をお願いいたします。

はい、ありがとうございました。

挙手全員であります。よって議案第2号、平成31年度山口市農業委員会事業計画(案)は承認されました。

以上をもちまして、議案の審議を、終了いたします。

次に、次第の9、報告に入ります。

(1) 業務関係資料について、事務局より報告をします。

事務局(河村主幹・岩本主幹) 【説明】

安田会長 ただいま、事務局より報告いたしました。業務関係資料について、意見・質問がございましたらお願いいたします。

徳田委員 ちょっとすみません。

安田会長 はい、徳田委員。

徳田委員 中央地区の徳田と申しますが、太陽光発電についてですね、資料を出していただいてありがとうございます。もう少し分析してみるといいなと思うのはですね、転用の許可が出たのを見ますと、業者がほとんど限られた同一業者なんですよ。個人ではなくて、他県の方が業者で開発しておられる。これが相当シェアを占めているんじゃないかと思うんです。しかしこういう御時勢の中で、言葉は悪いですがとんずらされたときにどうなるか。このへんが一

且、農業委員会で転用の許可をした、もうそれで終わりなのか。それとも今後の対応策ですね、その辺も事業計画の中でもですね、いろいろ農地の荒廃とかありましたが、山沿いならいいけど田んぼのど真ん中でそういうものが出てくる。この辺が、法律的といいますか、農業委員会が今後の位置付けとして、どう対応していくか。課題として、ひとつ検討していただくように是非お願いしたいなと思います。よろしく。

事務局（岩本主幹） はい、すみません。検討ということですので、特にお答えはこれから考えていけば良いのかなというところではあるんですけども、若干、状況を御説明いたしますと、中央地区は確かに同一の業者さんが多く出されていると思いますけれども、私が持っている川西地区とかは、結構個人の方が申請をされるケースがございます。もちろん太陽光発電業者さんを通じてということになるんですけども。あと、現在の状況としましては、看板を必ず設置するよという法改正がございまして、太陽光発電設備設置された後には必ず連絡先が記載されております、その場にですね。そちらについては、完了の届をいただくときとか、皆さんにサインをいただいている完了の届をいただくときとかにですね、看板はちゃんと設置されますよねっていうのは確認をしております。これは義務ですので設置はされているはずで。そういったところで、過去はやはりほったらかしにして連絡先もわからないっていうような御意見もあったんですけども、その辺は多少、解消されておるかなというところなんです。ただ徳田委員さんのおしゃるとおり、他県の業者さんが急に倒産されたとかというケースがあるんですね、これは確かに困りはするんですけども、その辺については今後、検討課題とさせていただきます。

事務局（吉村参事） 若干、補足なんですけれども、基本的には太陽光発電ということで、転用されております。その後について、農業委員会のサイドで実際の指導とかなかなか難しい部分もあると思います。実際には環境問題であるとか、そういったことに影響してくると思いますので、いわゆる環境サイドであるとか、エネルギーという面での経済産業省関係であるとか、そういったところにはですね、今そういう将来的な懸案についても検討が進められているものというふうに聞いておりますので、農業委員会のほうとしてもですね、そういった方面のほうに働きかけていきたいと思います。以上です。

安田会長 徳田委員、よろしゅうございますか。

徳田委員 はい。

安田会長 せっかく座長さんも来られておりますので、何か御意見、御質問等があればお願いいたします。

ありませんか。

それでは、意見もないようですので、以上をもちまして、平成31年度山口市農業委員会年次総会を閉会いたします。大変皆さん、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

また今から農繁期等に入ります。農機具等の事故、けがのないように、ひとつ用心をして農作業に励んでいただきたいと思います。本日は大変ありがとうございました。

以上、平成31年度山口市農業委員会年次総会議事録である。

令和元年5月21日

山口市農業委員会
会長 安田敏男

この議事録は正当であって決議事項に相違ないことを認める。

署名委員 山根良男 印

署名委員 山根伊都子 印

記録者 三原登志子 印